

地域と共に野生動物との共生を考える

～みんなのフィールドエソロジー～



大阪大学大学院人間科学研究科附属比較行動実験施設では、霊長類、特にニホンザルの行動を研究しています。山田一憲教授と学生たちは、研究を通して得られた技術や知見を活かして、一般向けの動物の行動観察会や、専門家を対象としたセミナーなどを各地で実施しています。その基盤を支える研究拠点となっているのが、岡山県真庭市にある、野生のニホンザルを間近に見ることができる、**神庭（かんば）の滝自然公園**です。1958年、大阪大学文学部心理学研究室が岡山県真庭郡勝山町（現真庭市）と協力して、神庭の滝周辺に生息するニホンザルの餌付けに成功し、以来大阪大学の研究グループがすべての個体を識別、命名し、個体間の社会関係、集団の歴史を記録、分析しています。これほど長期間、個体識別に基づく継続研究が行われているサル集団は世界的にも珍しく、多くの研究成果をあげています。地元の人びとにとって野生動物は農作物を荒らす頭の痛い存在でもあります。神庭の滝自然公園は、観光施設としての価値を越えて、次世代を担う子どもたちと一緒に、人と自然の共生を考える場として、地域の財産になっています。

stakeholders

- ・真庭市勝山振興局
- ・真庭市内の学校
- ・真庭市民
- ・（一社）真庭観光局

神庭の滝自然公園スタッフリーダー

田中陸雄さん

休みの日も阪大のGPSでサルがどこに居るか確認するし、何かあったら山田先生に伝えています。チームでやっているから情報共有は当たり前。

里にサルが出て、市民に迷惑をかけないように、それだけ気を付けています。「うちのサル」はこのあたりでは一番大きな群れ。でも被害が一番少ないのは、僕らが守っているから。

研究なんて別世界で、こんなことに携わるとは思っていなかった。個体識別も、山田先生に教えてもらって出来るようになってきた。可能な限りずっと山田先生と一緒にこの仕事をやっていきたい。

勝山小学校 木田校長

神庭のサルは勝山の誇れる財産。すごいものが勝山にあるということを子どもたちに教えたい。



「そんなことするんだ！」というように、研究者も知らなかったサルの行動を、職員さんが教えてくれることもあります。

真庭市勝山振興局
山本さん

勝山町が合併して真庭市になって、阪大との関係を知らない職員もいる。もう一度光を当てたいと思っている。

神庭の滝自然公園スタッフ
黒木さん



researchers

附属比較行動実験施設
准教授

山田一憲

私の研究現場はサルが暮らす場所であり、また、地元の人びとが暮らす場所です。

市内にはサルによる農作物の被害で困っている方もいます。被害を防ぐ方法をお伝えしたり、実際に柵の設置をお手伝いすることもあります。

でも実は市内には複数の群れがあって、被害を出しているサルは、ほぼ神庭のサルではないんです。私たち1人1人に家族があり、個性があるように、野生のサルたちもそれぞれが固有の存在です。

人間と野生動物の共存を考える素地を、地域の人びとと一緒に育んでいます。

since 1958

真庭観光局 須田さん

滝がメインで、サルは付随的なものと思っていたけど、お客さんがサルを楽しみに来ていた。

真庭市勝山振興局
谷岡さん

子どもの頃、サルは怖かったけど、神庭の滝のサルは穏やか。

母娘のおサルさんは
顔が似ているよ

家族当てゲーム



このおサルさんはどんなきもちかな？
おサルさんとぼくたち、にているところは？
まちでおサルさんにあったらどうする？

あ、赤ちゃん！
成長してる！

おれが育てた
スイカ食べられた！



真庭市立勝山小学校3年生のみなさん

山田一憲准教授の

共創の
ポイント

私たちの真ん中にはサルがいます。その魅力と美しさ、そして必ずしも人間が思ったとおりにはならないもどかしさも、次の世代と分かち合っていきたいと思っています。